

事例13 内容項目1-(4) 正直誠実

## 「ごめんなさい」でぽっかぽか

道徳 第1学年

能美市立和気小学校・教諭

### 1 事例の概要

本校では、研究主題を「豊かな心を育む学校づくり～認め合う子、共感し合う子の育成～」としている。温かい人間関係づくりを通して人権感覚を養い、互いのよさを認め、ともに伸びようとする児童を目指している。そのような児童の姿は、学校教育活動全体を通して育成されるものであり、中でも、道徳教育を学校教育活動と関連させて、計画的・発展的に進めることが必要であると考えた。そのために、本校では、道徳教育の柱となる重点目標を見直し、学校教育活動との関連を見通した年間指導計画を作成し、実践することにした。

#### A-1 人権教育年間計画

### 2 実践内容

#### (1) 主題設定の理由

入学して2ヶ月。教師との関わりを強く求めていた子どもたちだったが、学校生活に慣れるにしたがって行動範囲や関わる人々が広がってきた。それとともに、友達同士でのトラブルが出てくるようになった。1年生の子どもたちは活発で仲がいいのだが、度々、友達同士であいさつが交わされていなかったり、手助けしようとやさしく声をかけてくれる友達に対して上手に関われなかったりする姿が見られ、トラブルの原因是、コミュニケーションの行き違いであることが多いと感じた。

今後、友達や上級生、先生などの様々な人々と人間関係を築いていく第一歩として、あいさつは欠かせない。あいさつに複数時間取り組む中で、人と関わる心地よさを感じ、進んで人と関わろうとする行動力をつけたいと考えた。

1年生は、まだまだ自己中心的な考えが強く、自分の立場を守りたいという思いから、うそやごまかしの誘惑に負けてしまうことが多い。本時では、1年生だからこそ、「ごめんなさい」というあいさつをとおして、自分に正直になる快さに気づかせ、正直・誠実に生きることの大切さを学ばせたいと考えた。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 総合単元的な取り組み

人間関係作りの基盤として、「あいさつでぽっかぽか」を合い言葉に総合単元的な取り組みを行った。いろいろなことばの中から特に「ありがとう」「ごめんなさい」を選んで重点的に取り組むことにした。本校ではこれらのことばもあいさつとしてとらえている。あいさつの取り組みは、学校だけでは不十分であるので、最初の授業を授業参観で公開し、保護者にも協力をお願いした。

##### ② 展開の工夫

友達の大切なクレヨンを折ってしまったのぼるの心の葛藤を考えることによって、のぼるに共感させたいと思い、クレヨンを折って葛藤している場面とのぼるが正直にあやまった場面の2つに分けて提示した。その後、「ごめんなさい」と正直に謝り、友達に許してもらったのぼるの劇化を取り入れることによって、のぼるのほっとした快い気持ちに気づかせることができた。最後には、のぼるのような体験を学級の中で話し合ったり、教師の説話には失敗談を用いたりして、自分に正直に過ごす快さや大切さを改めて確認し合った。

### ③ 評価の工夫

授業前後の子どもたちの変容を知り、励ますために、以下のような評価を行った。

- ・あいさつに関するアンケート（授業前後）
- ・あいさつでぽっかぽかカード（今日一日あいさつができたかどうか）
- ・ありがとうポスト（実践力がついたか）
- ・個人カルテ（子どもたちの行動の様子）

あいさつでぽっかぽかカードには、子どもたちに励ましの言葉を添えて家庭に返した。1時間の評価だけではなく、今後も総合的に子どもたちの変容を見ていくことが必要である。

## 3 指導の実際

配時	学習活動	児童の意識の流れ	指導上の留意点 ◆人権教育の視点
展開	<p>○「ぱきっ」とクレヨンが折れたとき、のぼるさんはどう思ったでしょう。</p> <p>◎「だまっていようか・・・」というのぼるさんは、この後、どうしたと思いますか？</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・しまった</li><li>・もしかして折れちゃったのかな</li><li>・大変だ</li><li>・どうしよう</li></ul> <p>・ごまかしたと思う。 (誰も見ていないから、ばれなければいいから、怒られるのがこわいから、知らなかつたことにすればいい)</p> <p>・あやまったと思う。 (とみこさんはゆるしてくれると思うから、わざとじゃないけど悪いことをしてしまったから、かくしきれないから)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・クレヨンが折れた時ののぼるの気持ちを、児童と共有するため、実際にクレヨンを折る。</li><li>・のぼるの「だまっていようか・・・」と「返事ができなかった」という言葉に注目させ、ごまかそうとする気持ちと、正直にあやまろうとする気持ちの間で葛藤していることに気づくようにする。</li></ul>

C-1 指導案

C-2 授業の様子

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・資料をもとに、児童が自分の体験を交流できた。
- ・劇化によって、あやまったくのぼるの気持ち、ゆるしてもらえた時ののぼるの気持ちに寄り添うことができた。
- ・子どもたちは、初めは人のものをこわしたりなくしてしまったりしたときのことを話しにくそうだったが、最後には、心を開いてのぼるのような経験を話し、自分に正直に生活する大切さ、快さを感じ合うことができた。

### (2) 課題

- ・今後、子どもたち自身で正直に気持ちよく過ごせたかをふりかえるために、心のノートを活用するのもよい。
- ・低学年では、心情に迫るために、ていねいに状況を押さえたり、劇化や役割演技などをとりいれたりすることが効果的であり、勧めていく必要がある。
- ・学習後は、教材を教室に掲示し、いつでも振り返られるようにするとよい。